

No. 3 9		2026年 8 月 23 日			
三位一体後第十二主日 礼 拝					
説 教 『キリストを土台として』					
		吉 丸 初 美 師			
司 会		吉 丸 初 美 さん			
奏 楽		自 動 演 奏 機			
招 詞		マルコ福音書 7章32節			
主 の 祈		(5 6 4)			
讃 詠		5 4 6			
交 読 詩 編		詩 3 2 編			
祈 禱		美 歌 21 - 1 4 9			
使 徒 信 条		(5 6 6)			
聖 説		書 I コリント人への手紙 3章9～17節			
		教 (口語訳259頁、新共同訳302頁)			
『キリストを土台として』					
祈 禱		美 歌 21- 3 9 0			
献 金					
感 謝					
報 告					
頌 祝		5 3 9			
後 奏					
次週の礼拝 (三位一体後第十三主日礼拝)					
説 教 『愛に生きる』					
ルカ福音書 10章25 節～37節					
招 詞 使徒行伝 6章7節					
交 読 詩 篇 詩 篇 6 3篇					
讃美歌 546、21-236、21-536、540					
礼 拝 当 番					
今週 23 日 司会 吉 丸 初 美 さん					
次週 30 日 司会 吉 丸 初 美 さん					
会 堂 清 掃 奉 仕					

本日の集会

★教会学校 午前9時45分

★コーヒータイム 礼拝後～

それぞれの思いを語り合しましょう。

●レコードコンサート

メンデルスゾーン

弦楽四重奏曲 変ホ長調 作品 26

交響曲 第3番 イ短調〈スコッチ〉 作品 56

S外キ協全国リレー集会in広島条例制定ネットワーク

第11回学習会 15時～17時

会場:広島カトリック会館 (多目的ホール)

お話:佐藤信之さん 資料代:500円

今週の集会/スケジュール

▲中四国ハンドベル委員会 8月29日(日)18時～

会場:広島西部教会

次週以降のスケジュール等

★9月教会定例役員会 9月6日(日)13時～

役員の健康と働きを覚えてお祈り下さい。

★広島キリスト教信徒会例会 9月26日(土)14:00～

†小野紀美子さん8月15日(土)朝永眠されました。

生前は広島西部教会の教会役員、また婦人会員として奉仕されました。長い間の働きを覚え心から感謝いたします。16日(日)前夜式、17日(月)に葬式が山根師司式のもとに執行されました。

◎白石百合子さん(長男 白石貞美さんと子どもさんお二人、咲良ちゃん、楓太くん)ご一家お揃いで礼拝に出席されました。感謝いたします。

◎ 夏期特別献金 ◎

神様の恵みを感謝して感謝と祈りの中に夏期特別献金を捧げましょう。

目標額 150,000円

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	4(1)	7(1)	11
聖書を読む会	2	2	4

◇今週の説教要旨(三位一体後第十二主日礼拝)				
『キリストを土台として』Iコリント 3章9～17節				
主イエス・キリストとの出会いは人それぞれ違う。そしてその人がキリストを信じ土台として受け入れた上でどのような生き方をしてきたのかを明らかにしてくれるのが「死」ではないだろうか。先週わたしたちは愛する友を葬った。「死」という最大の「火」を通る時、その人が残した肩書や財産ではなく、その生涯を根底で支えてきた「目に見えない土台」そのものと対面させられる時がある。死という厳粛な瞬間をくぐり抜けてなお残るものは、その人が何を土台として受け入れ、その上でどのような生活を送っていたか、ということだ。イエスさまの死は神の子としての完全な従順の極みであり、また彼の「徹頭徹尾他者のために生きる愛」の生涯が最も色濃く現れた瞬間であった。神はこの十字架によってこの世の知恵を退けた。イエス・キリストの十字架の死と復活に出会った弟子たちやパウロの生き方は変えられた。それは「キリストを土台として」生きる者となったからである。主イエスを救い主、神の子と信じるわたしたちは「キリストを土台として」受け入れた上でどのような生活をしているのか、と問われている。パウロはその十字架こそが人間のすべての罪と弱さを引き受け、神の愛を完全に満たした神の知恵・神の力であると知った。それはこの世のどんなに優れた知恵であっても適わない。教会と信仰者が据えるべきパウロが語る「イエス・キリストという唯一の土台」とは何を指すのか。パウロはわたしたちは「神の畑」であるという。そこに蒔かれるのは「御言葉」神の言葉である。それを神が成長させて下さる。では、わたしたちは何もしなくても良いのか。堅い食物を噛みしめるように御言葉を聞くとき「良い土地」となり悟り受け取れるようになる。福音は一つであり、主は一人である。わたしたちはキリストを喜ばせようという思いか、それともこの世を喜ばせたいという欲望のどちらで、日々生活し行動し御言葉を実践しているだろうか。教会の歩むべき道は、人の嗜好や批判に左右されるものではない。聖書に立ち帰り、罪を赦してくださったキリストへの感謝をすべての出発点としなければならない。				